

平成19年度中間評価結果（平成19年12月）

[研究開発課題名] 高速電気信号処理技術に基づく適応制御光トランスポートネットワークの研究

[委託機関名] 三菱電機株式会社

項目	評価 ランク	所見	再評価 ランク	再所見
総合所見	A	<p>(技術)</p> <p>下記の理由により、中間時点において妥当な成果が得られ、今後も十分にその成果が期待できると判断される。</p> <p>中間目標の中で、重要な3課題、分散フリートランスポンダ、MEMS駆動光スイッチ、自律適応型ネットワーク制御モジュールについて、それぞれの目標が概ね達成されている。MEMS駆動光スイッチについては、当初の方式では十分な性能が出せないことが確認され、新規方式の提案と基本機能の確認を実施し、当初の期間内にて所要特性をクリアする見通しを得ている。さらに、これらを総合的に評価する、システム検証についても、エミュレータ環境の構築とそれを用いたシミュレーションにより機能確認できている。成果についても、これまでの期間において、特許14件、外部発表23件が得られており、研究開発課題が順調に進展し、その成果が見えてきた結果と判断できる。</p> <p>フォトリックネットワークでの適用にはfault locationの課題を含め、中間発表における、担当者の受け答え等から推測し、研究開発課題に対する取組み、さらには成果に対し、確実にかつ着実に対応しているとの印象であり、今後も同様に進捗するものと考えられる。</p> <p>以上のことから、今後も十分にその成果が期待できると判断される。</p>	-	<p>(技術)</p>
		<p>(事業化)</p> <p>本研究は、今後一層の高速化、大容量化が進むフォトリックネットワークの基盤技術として、これを導入する通信事業者の設備コストのみならず運用コストを大幅に低減できる潜在力を有していること、研究開発や事業化に向けた真摯な検討姿勢が見られること、さらには受託者の光通信事業が世界市場で一定のシェアを獲得している実績を有していること等から売上納付については、期待に応えられるものと考えられる。本技術が最も期待される海底ケーブルシステム市場が算定外にありさらに期待される。</p>		<p>(事業化)</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。